



公民館だより  
バックナンバーはこちら

発行元/厚木市立玉川公民館 〒243-0121 厚木市七沢 175-6 ☎(046) 248-0006 FAX (046) 270-2300 メールアドレス 8619@city.atsugi.kanagawa.jp



完全復活

▲山口市長を迎え、開会あいさつする杉山実行委員長



# 令和5年度 玉川地区 公民館まつり グラフィック

▲呼び込み太鼓が鳴り響く中、まつりが開幕しました



▲冷たい雨が降る中の従事でも笑顔の役員の皆さん



▲ステージいっぱいにダンスを披露する出演者ら

浅間太鼓保存会による呼び込み太鼓が威勢よく鳴り響く中、5年ぶりに復活した芸能発表会も加わり玉川地区公民館まつりを2月25日盛大に開催しました。文化作品展や福祉バザー、防災フェアなど、なじみの催しのほか「玉川と関東大震災」(裏面参照)と「小野小町伝説」の2つの特別展示も実施し、盛りだくさんの内容で1000人余りの来場者で賑わいました。

▼笑顔で太鼓をたたく浅間太鼓保存会の皆さん

# 盛大に終わる



◀出品者の力作に見入る来場者ら▶



▲はしご車の体験乗車を楽しむ子どもたち



## 小野小町伝説を地域でアピール

公民館まつり特別展「小野小町伝説」で玉川地域に伝わる小野小町にまつわる伝承をパネルや写真などの資料で紹介した展示に合わせ、平安時代のお出かけスタイル・壺装束(つぼしょうく)に扮した女性役員らが、会場に彩を添えていました。また関連事業として開催した「小町の里かるた」大会では大判のかるた札を競って取り合う元気な子供たちの姿がありました。

▼かるた大会で札を取り合う子供たち

▼壺装束に扮した女性役員ら



運営に当たった小野小町研究会の三橋光男会長は「平安時代の美人として有名な歌人・小野小町の出生地と言われる小町姫を祭る小町神社などの伝説を地域の皆さんに知っていただく良い機会になりました」と笑顔で話していました。

壺装束に扮して写真撮影した皆さんの写真を公民館の1階廊下に展示しました。

抽選会当選番号は裏面に掲載



# 地域生活応援 抽選会

## 当選番号

### 発表

市制70周年記念キャッチフレーズ ～未来へ一歩 つながる あつぎ70年～  
玉川地区から70人の皆さまに生活応援の商品を抽選でプレゼント!

公民館まつりで抽選会に参加した皆さんは、お手持ちの抽選番号控えて当選番号の照合をしてください。当選された方は、次のとおり引換券を持って、玉川公民館窓口で賞品と引き換えてください。

- ◆期間 3月15日(金)～24日(日)
- ◆時間 午前10時～午後5時
- 注意) 引き換え期間を過ぎると当選は無効です。

ココの番号と照合してください。

令和5年度 玉川地区 公民館まつり

当選発表は 日発行の 公民館だよりに します。

抽選番号 控え

抽選番号 No. \_\_\_\_\_

当選時の引換券

地域生活応援 抽選会

当選された方は、下記期間中に玉川公民館窓口で本券と賞品を引き換えてください。  
◆期間 3月15日(金)～24日(日) ※ただし20日(香分の日)は除く。  
◆時間 午前10時～午後5時  
注意) 期間を過ぎると当選は無効です。

商品券 (5,000円分)	140、185	衣料品商品券 (3,000円分)	182、113、65	オーブントースター	202
卓上コンロ	149、242、270	ワイヤレス・イヤホン	272、167	コーヒーメーカー	94
非常食セットA (レトルト品)	92、7、221 123、249	入浴剤セット	181、225、239 78、246	ホットサンドメーカー	63
非常食セットB (缶詰パン)	105、121、155	特選 厚木のお米(5kg)	91、111、223	ヘアドライヤー	119
トイレットペーパー (12ロール)	236、189、126、198 162、269、106、245 156、210	あつまると選菓子 あゆコロちゃんクッキー	61、86、1 142、154、130	鍋(フッ素加工)	67
農協細丸うどん (3袋セット)	28、120、107、139、171、213、68、117、114、104、93 233、212、79、138、80、26、110、115、190			調味料セット	204 34 214

玉川地区公民館まつりにご来場いただきありがとうございました! また、次回もぜひお越しください!

公民館まつりの写真を公民館1階廊下に展示しました。公民館にお立ち寄りの際にご覧ください。

玉川地区 公民館まつり

あれから100年  
玉川と関東大震災  
特別展示

歴史に学ぶことで被害を少しでも軽減することはできないか。今回の公民館まつりで企画した特別展示「玉川と関東大震災」には、地域の皆さんから18件の伝聞情報が寄せられました。今回、その一部を掲載します。玉川の先人が伝え残した証言を教訓にしてみましょう。



伝聞証言 7 ▶ 父から

床下に土砂が流れ込んで、本堂を支える心柱が土砂で押されてわずかにずれた。そのため、わずかだが傾斜ができ、戸と柱の間に隙間ができた。心柱のずれは昭和60年の本堂修理の際に判ったもので、屋根が大きく重いため元に戻せず、戸の歪みだけ修正した。本堂の白壁も落ちた。なお、父は地震時竹藪に逃げたという。

(七沢・和田 明弘 様)

▲現在の広澤寺本堂

伝聞証言 10 ▶ 父から

余震がひどかったため、家の横の竹藪の竹を切って蚊帳を吊る広さを確保し、数日間そこで過ごした。岡津古久では、AさんとBさんの家が潰れた。Aさんの父がみんなに片づけを手伝ってもらったと話していた。

子安神社の社殿が東側に傾いたため、みなで引き起こし、太い丸太をつつかえ棒にして支えるようにした。(岡津古久・佐藤 晴男 様)

▲震災後の子安神社旧社殿(右につつかえ棒らしきものが)

伝聞証言 1 ▶ 父から

屋敷の2方を囲む石垣(最高約4m)が基礎部分を残して崩れた。防火用に石垣沿いに植えていたモチの木やカシの木合わせて30～40本が一緒に倒れた。石垣の修復は、素人積みでは脆いので、城の石垣技術を備えた石工の「黒川軍団」に依頼し、「野面積み」で築いてもらった。2方向が交わる角の傾斜が城の石垣のような特徴を示している。現在あるモチの木は当時倒れたものを植え直したものである。

母屋(当時は養蚕を行っていたため3階建て)を支えていた柱が礎石から外れて北側に30～50cmズレ動いた。ジャッキのような物で持ち上げてズレた柱の下に新たに石を入れて水平を保つようにした。だが、元のように戻らず、廊下などに凸凹感が残った。

(小野・三橋 昇 様)

▲地震後再建した石垣とモチの木

\*野面積み: 自然石をそのまま積み上げ、排水性に優れていて頑丈